

# 芸閣

～図書館だより～

第7号  
2019年11月  
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。  
書庫、書齋という意味です。  
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)



## 秋の日はつるべ落とし



「つるべ」とは、水を汲むために竿や縄の先につけて、井戸の中におろす桶のこと。滑車がついているのですが、手を離すとストンと直下に落ちます。

「秋の日はつるべ落とし」とは、あっという間に日が沈むことの形容で使われます。秋は日照時間が短く、西日が一気に沈み、あっという間に日没となります。

ちなみに、和歌山の日の入り時刻を調べると、冬至の12月22日は16時55分、12月初旬が最も早く16時50分です。冬至の頃よりも、12月初旬の日の入り時刻が最も早いようです。



## 生徒図書充実委員会に参加して

11月15日、和歌山県立近代美術館にて行われた生徒図書充実委員会に参加しました。美術館で学芸員さんにお話をいただいた後、美術館内を見学させていただきました。日本とチェコの交流100周年を記念した「ミュシャと日本、日本とオルリク」という企画展では、アルフォンス・ミュシャやエミール・オルリクというチェコの作家の作品を中心に展示されており、日本とチェコの作家がお互いに影響を与えていたことが分かりました。ぜひ皆さんも近代美術館に足を運んでみてください。

この生徒充実委員会を通して、図書局員同士の絆を深めるだけでなく、他校の方とも交流を深めることができました。

(2年 原)



(裏面に新着図書を紹介を載せています)



# 新着図書の紹介

## 日本の小説

- 『ツナグ 想い人の心得』 辻村深月 著 新潮社
- 『響け！ユーファニウム①～③』 武田綾乃 著 宝島社
- 『白銀の墟 玄の月①～④』 小野不由美 著 新潮社
- 『15歳、まだ道の途中』 高原史朗 著 岩波書店
- 『SNS炎上』 長江優子ほか 著 金の星社
- 『スターティング・オーバー』  
三秋縋 著 アスキーメディア
- 『ひらいて』 綿矢りさ 著 新潮社
- 『桜のような僕の恋人』 宇山佳佑 著 集英社
- 『伊藤くんAtoE』 柚木麻子 著 幻冬舎
- 『慈雨』 柚月裕子 著 集英社
- 『某』 川上弘美 著 幻冬舎

## 社会科学

- 『ぼくはイエローでホワイトで、  
ちょっとブルー』 プレイティみかこ 著 新潮社
- 『過労死110番 働かせ方を問い続けて30年』  
森岡孝二 編 岩波書店
- 『外国人労働者受け入れを問う』  
宮島喬 著 岩波書店
- 『消防官になるには』 益田美樹 著 ぺりかん社
- 『民主主義は終わるのか』 山口二郎 著 岩波書店
- 『日本経済30年史』 山家悠紀夫 著 岩波書店

## 自然科学

- 『日本人にとって自然とはなにか』  
宇根豊 著 筑摩書房
- 『最高のパフォーマンスを実現する超健康法』  
メンタリストDaiGo 著 PHP研究所
- 『統合失調症』 村井俊哉 著 岩波書店
- 『プリンシピア 自然哲学の数学的原理①～③』  
アイザック・ニュートン 著 講談社
- 『臨床工学技士になるには』 岩間靖典 著 ぺりかん社
- 『15歳、まだ道の途中』 高原史朗 著 岩波書店
- 『カラー図解人体誕生 からだはこうして造られる』  
山科正平 著 講談社
- 『「ファインマン物理学」を読む』  
竹内薫 著 講談社
- 『数の概念』 高木貞治 著 講談社
- 『ウォーキングの科学』 能勢博 著 講談社
- 『道具としての微分方程式』 斎藤恭一 著 講談社

## その他

- 『日曜俳句入門』 吉竹純 著 岩波書店
- 『何のための「教養」か』 桑子敏雄 著 筑摩書房
- 『死ぬほど読めて忘れない高速読書』  
上岡正明 著 アスコム
- 『撮ってはいけない』 飯野たから 著 自由国民社
- 『民主主義は終わるのか』 山口二郎 著 岩波書店
- 『銀河帝国は必要か？』 稲葉振一郎 著 筑摩書房
- 『レギュラーになれないきみへ』  
元永知宏 著 岩波書店
- 『自慢晰』 鈴木達也 著 一粒書房
- 『現代用語の基礎知識2020』 自由国民社
- 『2020年の論点100』 文藝春秋

